

Analytical Sciences 誌の更なる飛躍のために

藤 浪 真 紀



「Analytical Sciences」誌が創刊されて20年以上経過しましたが、会員の皆さんは本学会の英文論文誌にどのようなイメージをいただいているでしょうか。月刊化、電子化により本誌が置かれている状況は劇的に変化しています。投稿数はここ数年毎年1割ずつ増加しており昨年は738報（X線構造解析は除く）の投稿がありました。特に、中国、インド、イランを中心としたアジアからの投稿数の伸びが顕著で、外国人と日本人の投稿数の比は3:1です。掲載論文数は393報で外国人と日本人の比は1:1となっており、採択率はほぼ53%です。ようやく国際誌となり、特にAsian Journalとしての役割を果たしてきているといえるでしょう。一方、本誌のインパクトファクター（IF）は1.25であり、他の総合分析化学誌（Anal. Chem.: 5.64, Analyst: 2.86, Anal. Chim. Acta: 2.76）と比較しても劣勢です。本誌掲載論文の被引用件数の調査を最近実施しました。論文カテゴリーとしては総説・総合論文の被引用件数が高く、また特集号の論文にも高いものが多いようです。国別の平均ではイラン、中国、インドの順に得点が高く、日本の論文は5番目と予想外に低い順番ということもわかりました。

IFの向上には戦略的な取り組みも必要で、他誌も様々な取り組みをしているようです。論文投稿を受身で待っているだけではなく、編集委員会としては積極的な活動を行っています。例えば最近のトピックス（液液界面計測、マイクロ分析化学、X線分光、フローインジェクションなど）を集約した特集号には、ゲスト編集委員のご努力により海外を含めて非常に優れた論文が多数投稿されております。学問のみならず広い人脈や組織力といった本学会会員の活動の特徴をいかした企画です。また、若手の先生方の一連の研究をまとめて発表するための総合論文企画を積極的に推進し、世界に飛び出していくための場にしていきたいと考えています。2点目は本誌掲載論文の信頼感を高めることです。問題と考えらえる論文が掲載されている、また審査意見に対して必要以上のコメントがなされているなどのご意見をいただくことがあります。編集委員会でも多くの時間を審査基準について議論していますが、最終的には各編集委員の判断に一任してきました。28名の編集委員で分析科学の全領域をカバーすることは困難ですが、公平な審査のためのガイドラインを編集委員が共有化し、同一基準で主導権を持って最終的な判定を行うことにより、本誌への信頼感を高めていきたいと考えます。

最後は会員諸氏へのお願いです。自信作の論文を外国著名誌に投稿するのは引き止めることはできませんが、ぜひご自身の論文に本誌の論文を引用していただきたいということです。たった一つ引用していただくだけでIFは確実に上昇します。編集委員会としては、分析化学関連の国際会議での冠ポスター賞の設置、WEBの充実、各号の注目論文の選定、迅速な審査など知名度アップや投稿者のサービスを行っています。学会（誌）の連携や融合の動きが模索されているなかでイニシアティブをとるには、本会の活動発信メディアの更なるクオリティーの向上が重要です。今後とも会員諸氏の本誌への強い支持をお願いします。

〔Masanori FUJINAMI, 千葉大学工学部, 「Analytical Sciences」編集理事〕